

温室効果ガスの排出抑制

オフィス電力使用量などのグループ環境目標を設定し、省エネ活動、省エネ機器の導入及びエコドライブ等をグループ一体となって推進しています。

2013年度は、電力使用量や工業用燃料の使用量は減少しましたが、原子力発電所の停止に伴い、火力発電所での発電が大幅に増加したことから、電力のCO₂排出係数が高くなり、結果としてCO₂の排出量が増加しました。また、設備の経年劣化によるHFCの増加などに伴い、CO₂以外の温室効果ガスの排出量も増加しました。

詳細は九州電力ホームページ
 関連・詳細情報 (P2参照) >
 温室効果ガスの排出量の詳細実績 (グループ会社)

用語集を
 ご覧ください

- 地球環境問題
- 温室効果ガス
- エコドライブ
- HFC (ハイドロフルオロカーボン)
- CH₄ (メタン)
- N₂O (一酸化二窒素)
- PFC (パーフルオロカーボン)
- SF₆ (六フッ化硫黄)
- 天然ガス
- LNG (液化天然ガス)
- LPG (液化石油ガス)
- 再生可能エネルギー

温室効果ガス排出量

単位: 千トン-CO₂

	2011年度	2012年度	2013年度
CO ₂ (二酸化炭素) *	113.9	134.8	152.5
CH ₄ (メタン) *	0.5	0.1	0.1
N ₂ O (一酸化二窒素) *	0.0	0.0	0.0
HFC (ハイドロフルオロカーボン)	15.9	36.0	115.3
PFC (パーフルオロカーボン)	—	—	—
SF ₆ (六フッ化硫黄)	—	0.0	0.0
合計	130.3	170.9	267.8

(注) 四捨五入のため合計値が合わないことがある。
 ※: 電力会社等への販売電力量分 (発電用燃料の燃焼に伴う排出量) を除く。

各種エネルギー使用量

	単位	2011年度		2012年度		2013年度			
		会社数	使用量	会社数	使用量	会社数	使用量		
電力	オフィス	百万kWh	41	25.9	41	24.0	41	25.5	
	工場等	百万kWh	33	198.3	33	182.8	33	178.8	
燃料	車両等	ガソリン等	千kℓ	43	6.6	44	6.6	44	6.8
		天然ガス	千m ³	1	0.1	—	—	—	—
	工業用*	冷暖房用	千kℓ	9	0.1	8	0.1	7	0.1
		A重油等	千kℓ	13	1.6	12	1.3	12	1.3
			LNG, LPG	千トン	7	1.4	7	1.3	7
熱	蒸気等	百万MJ	3	34.7	3	33.2	3	38.3	

※: 電力会社等への販売電力量分 (発電用燃料) を除く。

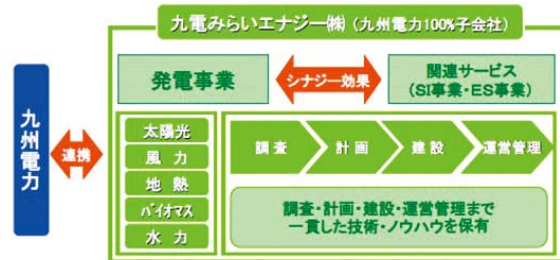
「九電みらいエナジー株式会社」を設立します

九州電力グループは、従来より、再生可能エネルギーの積極的な開発、導入を推進しており、更なる開発推進を図るため、九州電力の再生可能エネルギー開発部門を含め、西日本環境エネルギー(株)(NEECO)及び(株)キューデン・エコソル(エコソル)の再生可能エネルギー事業を集約し、再生可能エネルギー電源全般の開発を行う「九電みらいエナジー株式会社」を2014年7月に設立します。

九電みらいエナジーは、九州電力と連携のもと、地域社会に対し、責任ある事業者として再生可能エネルギーの普及拡大に努めるとともに、関連するサービスもお客さまにご提供し、地域社会からの再生可能エネルギーへの幅広いニーズにワンストップで対応していきます。

(株)キューデン・エコソル、西日本環境エネルギー(株)

また、これまで九州電力及びグループ会社が培ったノウハウや人材などの経営資源を活用し、九電グループ大における再生可能エネルギー開発の中核会社として、九州地域外への展開も視野に入れることなどにより、設立10年で70万kW(累計)の導入を目指して取り組んでいきます。



「九電みらいエナジー株式会社」の事業概要

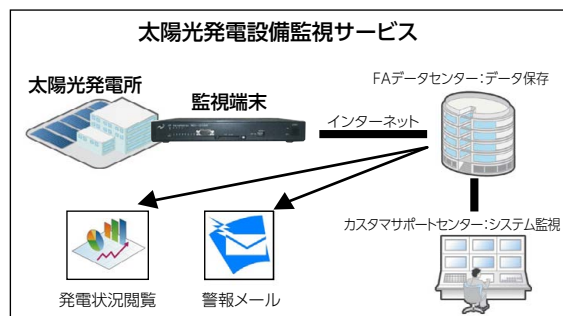
太陽光発電設備監視サービスがお悩みを解決します

ニシム電子工業(株)は、太陽光発電を導入されたお客さまからの設備監視やデータ管理に関するお悩みの声にお応えするため、「太陽光発電設備監視サービス」をご提供しています。

このサービスでは、ニシム電子工業の持つネットワークや設備の監視制御のノウハウを活かして、発電所での発電量や日射量など関連データの収集・管理、発電所の遠隔での監視や管理、収集したデータの長期保存等を行います。

今後これまで培ってきた監視・制御技術やネットワークの技術力を活用し、再生可能エネルギーの普及に貢献していきます。

ニシム電子工業(株)



再生可能エネルギーの積極的な開発・導入を進めています **グループ会社21社**

国産エネルギーの有効活用の観点から、また、地球温暖化対策面で優れた電源であることから、再生可能エネルギーの積極的な開発・導入を進めています。

グループ各社のうち15社が太陽光・風力・バイオマス発電などの再生可能エネルギーの設備を導入しており、再生可能エネルギー設備の工事施工や設計業務に関わるグループ会社を含めると、21社が設備導入や開発に携わっています。

〔設備導入状況〕

項目	会社数	総設備容量[kW]
太陽光発電	10	38,846
風力発電	3	64,390
バイオマス発電	1	11,350
廃棄物発電	1	29,200
合計	15	143,786

〔設備導入・開発に取り組む会社（青文字は設備導入会社）〕

太陽光発電（14社）^{*1}

- 西日本プラント工業（株）
 - 宗像アスティ太陽光発電（株）
- 西技工業（株）
 - （株）九電工
 - 九電テクノシステムズ（株）
 - 光洋電器工業（株）^{*2}
 - （株）キューベン^{*2}
- 誠新産業（株）
- 西日本環境エネルギー（株）^{*3}
 - （株）キューデン・エコノル^{*3}
 - ニシム電子工業（株）^{*2}
- （株）電気ビル
- （株）キューデン・グッドライフ東福岡
- 九電不動産（株）^{*2}

風力発電（7社）^{*1}

- 西日本プラント工業（株）
 - 鷲尾岳風力発電（株）
 - 奄美大島風力発電（株）
- 西日本技術開発（株）
 - （株）九電工
 - 長島ウインドヒル（株）
- 串間ウインドヒル（株）

バイオマス発電（2社）^{*1}

- 西日本環境エネルギー（株）^{*3}
 - みやざきバイオマスリサイクル（株）

廃棄物発電（1社）

- （株）福岡グリーンエナジー

水力発電（2社）

- 西日本技術開発（株）
- 西技工業（株）

地熱発電（1社）

- 西日本環境エネルギー（株）^{*3}

※1：グループ会社の子会社を含む。

※2：九州電力の研究設備として設置。

※3：2014年7月以降は、（株）キューデン・エコノルを母体として設立する九電みらいエナジー（株）で事業実施。

福岡県宗像市で「アスティソーラー発電所」が営業運転を開始しました **西日本プラント工業（株）**

西日本プラント工業（株）は、2013年7月に、福岡県宗像市内の社有地において「アスティソーラー発電所」（出力1,980kW）の営業運転を開始しており、この発電所の運転による2013年度のCO₂排出抑制量は約880トン^{*}に相当します。

この事業は、西日本プラント工業（株）の100%子会社・宗像アスティ太陽光発電（株）が運営しており、発電所構内には、市民の皆さまの環境教育施設としても活用できるよう、発電出力をリアルタイムに表示した説明パネルを設けています。

西日本プラント工業（株）が取り組む再生可能エネルギーを活用した発電事業としては、奄美大島風力発電（奄美市、出力1,990kW、2009年12月運転開始）、鷲尾岳風力発電（佐世保市、12,000kW、2011年12月運転開始）に次いで3番目となります。

今後とも、再生可能エネルギーの活用により地球温暖化防止に貢献するとともに、地域の皆さまと一体となって持続可能な社会の実現に少しでもお役に立てるよう努めていきたいと考えています。

※：2012年度の販売電力量あたりのCO₂排出量（CO₂排出クレジット等反映後）を使用して試算。



アスティソーラー発電所（福岡県宗像市）

アスティソーラー発電所	
所在地	福岡県宗像市
敷地面積	約3万㎡
出力	1,980kW
運転開始時期	2013年7月



オゾン層の保護

オゾン層を破壊するフロン類の回収を徹底するため、グループ環境目標を設定し、フロン類の排出抑制にグループ一体となって取り組んでいます。

2013年度は、HCFCやハロンを使用しない設備への更新により、HCFC等の保有量は減少しました。

オゾン層破壊物質保有量等

単位：トン

		2011年度		2012年度		2013年度	
		会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
CFC	保有量	4	17.5	4	16.7	4	16.4
	排出量		—		0.7		0.3
HCFC	保有量	25	53.1	23	52.4	23	50.6
	排出量		—		0.0		0.6
ハロン	保有量	6	9.4	6	7.0	6	6.9
	排出量		—		—		—

単位：ODPトン

オゾン層破壊物質排出量 [*]	2011年度	2012年度	2013年度
	0.0	0.7	0.3

※：各フロン類のオゾン層破壊係数を用いて、CFC-11重量相当に換算。

用語集を
ご覧ください

- 地球温暖化
- バイオマス
- 持続可能な社会
- CO₂排出クレジット
- オゾン層
- フロン
- HCFC
(ハイドロクロロフルオロカーボン)
- ハロン
- オゾン層破壊物質
- CFC
(クロロフルオロカーボン)
- オゾン層破壊係数
- CFC-11
(トリクロロフルオロメタン)